



長野県民生児童委員だより

つなぐ

Vol. **130**

**2017
Autumn**

平成29年10月1日

発行人 長野県民生委員児童委員協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)



100th Anniversary

民生委員制度創設100周年記念

全国民生委員児童委員大会報告

～天皇、皇后両陛下ご臨席のもと盛大に開催～

Contents

- ◆ 民生委員制度創設100周年記念
全国民生委員児童委員大会報告 2～3
- ◆ シリーズ 児童委員の役割を考える
 - 事例1 安曇野市豊科地区子育て通信の発行 4～5
 - 事例2 茅野市セカンドブック・プレゼント活動 ... 6～7
- ◆ 受賞者紹介 8



「民生委員児童委員100周年」
シンボルマーク

100th
Anniversary

天皇皇后両陛下ビッグサイト御到着



民生委員制度創設100周年記念

全国民生委員児童委員大会報告

～天皇、皇后両陛下ご臨席のもと盛大に開催～

民生委員制度創設100周年を記念する全国民生委員児童委員大会が7月9日・10日、全国からおよそ1万人が参加して東京都内で開催されました。長野県からは伊藤篤志県民児童連会長をはじめ145人が参加しました。

第1日は、東京ビッグサイト（江東区）を会場に、天皇、皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、記念式典が行われました。式典の第1部では、オープニングに会場内のスクリーンに民生委員制度100年の歴史をたどる映像が流されました。続いて、物故者黙祷、信条朗読、国歌斉唱が行われました。この後、全民児連・得能金市会長が式辞において「民生委員・児童委員活動の基本『地域に根ざす』ことを改めて心に刻むとともに、先達の思いや情熱、人びとに寄り添う姿勢を守り続けていくことが寄せられる信頼と期待に応えることにつながる。全国の民生委員・児童委員がその力を結集し、誰もが笑顔で、安全に安心して生活することができる地域づくりにまい進する」と述べました。式辞に続き、塩崎恭久厚生労働大臣、斎藤十朗全国社会福祉協議会会長、小池百合子東京都知事から挨拶があり、それぞれに民生委員・児童委員の長年にわたる活動への感謝と今後へのさらなる期待が述べられました。

全民児連会長表彰では、優良民児協として全国で74の民児協が推薦され、長野県関係では飯田市上久堅地区民児協が表彰されました。また、永年勤続単位民児協会長表彰に王滝村民児協・畑中実祐会長が、永年勤続民生委員・児童委員に79人の委員が表彰されました。第1部に続き、医師で作家の鎌田實氏（諏訪中央病院名誉院長）による記念講演「あたたかい社会をつく

る」がありました。43年間、地域医療に携わり、その間、チエルノブイリ原発事故の被災地やイラク支援のほか東日本大震災の被災地支援を続けている鎌田氏は、「愛」「地域貢献」「希望」をテーマに自身の体験を熱く語りました。また、「百年前よりも現在の社会は民生委員を必要としている」という印象に残るコメントもありました。

第2部では、次なる100年に向けた第一歩「大会宣言」の採択に続き、候補作78点の中から選ばれた100周年記念スローガン「支えあつ 住みよい社会 地域から」が披露されました。最後に、江戸消防記念会による纏（まと）振りや梯子乗りのアクションがあり、記念式典を終えました。翌2日目は、都内6会場に分かれ、テーマ別研修が行われました。なお、次期全国大会は沖縄県で開催されます。（報告：熊井編集委員）



会場全体の様子



シンポジウムの様子

2日目は、都内6会場に分かれテーマ別研修(5つのシンポジウム、小規模発表集会)が行われました。編集委員が参加した、1と5のテーマについて報告します。

<シンポジウムのテーマ>

- 1 民生委員制度創設の原点を学ぶ
- 2 これからの民生委員・児童委員活動
- 3 地域共生社会の実現に向けて
- 4 子どもたちの未来のために
- 5 これからの民児協活動に向けて

テーマ1
「民生委員制度創設の
原点を学ぶ」参加報告

- ◆コーディネーター
山田 秀昭氏
(全国社会福祉協議会 参与)
- ◆シンポジスト
小笠原 慶彰氏
(神戸女子大学 教授)
山崎 美貴子氏
(神奈川県立保健福祉大学 名誉教授)
堀江 正俊氏
(全国民生委員児童委員連合会 顧問)

民生委員制度の源となる岡山県の済世顧問制度、そしてその翌年に創設された大阪府方面委員制度や東京都の救済委員制度、これらの制度はどのように作られたのか。その経過とともに 民生委員の「奉仕性」、また隣人愛に基づく住民への寄り添いといった今日に至る制度の基本に込められた思いをひもとき、これからも守り続けていくべきこと、また時代の変化に即した活動のあり方をコーディネーターと3人のシンポジストを迎え研修を行いました。

東京ビックサイト国際会議場7階を会場として約1,000人が出席し、100年を有する制度とは何かから始まり、制度の時代背景・普及と林市蔵氏、笠井信一氏の思いと行動、民生委員精神の源流である「無報酬の報酬」の意味合い、社会福祉制度の発展との関わり、創設前後の社会状況、救済委員方面委員から民生委員へ、そして新たな時代の民生委員、児童委員の心得まで2時間半しっかり学習ができて、有意義な研修会でした。

(報告：深沢編集委員)

テーマ5
「これからの民児協活動に向けて」
参加報告

- ◆コーディネーター
市川 一宏氏
(ルーテル学院大学学事顧問)
- ◆シンポジスト
金井 敏氏
(高崎健康福祉大学 教授)
越智 和子氏
(琴平町社協常務理事・事務局長)
藤目 真皓氏
(全国民生委員児童委員連合会 副会長)

100周年記念全国大会2日目、よみうりホールにて、全国から1,100人参加のもと、テーマ別研修会が開催され、コーディネーター市川一宏先生他シンポジスト3人より、興味深いお話を聴くことができました。

民生委員・児童委員制度が多様化するなかで、活動上の負担の拡大、なり手不足などが課題になっており、民児協の果たすべき役割は一層大きなものとなっています。課題解決が難しい場合は一人で抱え込まず、関係機関と連携しつつ、計画的に活動を実施していきます。定例会の意義と役割は、単なる連絡場ではなく活動内容や情報交換を行い、互いに支え合う場であり仲間と考え、組織としての民児協がより中心になっていく必要があります。「靴に足を合わせるのではなく、足に靴をあわせていく地域づくりをやってほしい」とのこと。

シンポジスト全民児連副会長藤田真皓氏は民生児童委員を30年間されており、住職でもある方で、長年続けて活動できるヒントがありました。民

児協活動に向けて、「仲間同士が支え合う場となり、民生児童委員になって良かったと思える様に、委員に寄り添うこと。自分達が動きやすくなる為には自分達が考えること。常に民生児童委員信条に戻って、隣人愛無料奉仕の精神で活動すること。民生児童委員を楽しむこと」など、話されました。記念大会で新たな出会いと多くの発見があり、民児協活動に向けて、意義ある研修会でした。

(報告：土屋編集委員)

小規模発表集会 参加報告 ～全都道府県・20政令指定都市が参加～

小規模発表集会は、国際フォーラム(千代田区)を会場に行われ、全国47都道府県と20の政令都市からそれぞれ2つの民児協が日頃の活動について発表しました。会場は30人ほどが入る会議室27室で、参加者は希望する会場を選ぶことができます。

長野県からは、長野市松代地区民児協と飯田市上久堅地区民児協の発表がありました。

◇「児童の安心安全を」地域そして学校と連携し見守りたい(隊)

発表者 長野市松代地区民児協 石田 三千夫主任児童委員

交通安全協会、少年補導員などと協力して担当区域内にある松代小学校児童の登校時に行っている見守り活動の事例。

◇活き活き地域 笑顔のふれあい

発表者 飯田市上久堅地区民児協 椎名 祐平会長

小学生によるオリジナルカレンダー、絵手紙、花のプレゼント。高齢者が自主的に運営するサロン「フレッシュ3燦(さんさん)会」。寸劇による認知症サポーター講座など地域で支え合う高齢者向け活動事例。

2会場とも満員の盛況で、皆さん熱心に聞き入り、質問も出るなど有意義な集会でした。

(報告：熊井編集委員)

シリーズ

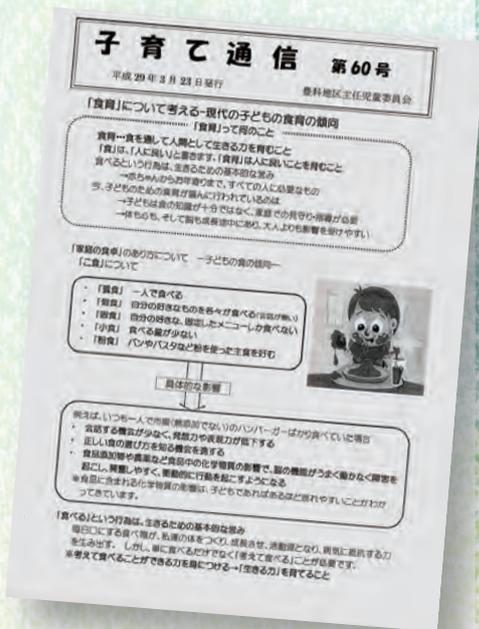
児童委員の役割を考える

近年子どもの貧困が社会問題となっています。しかし、民生児童委員にとっては、地域によって児童数や環境の違いはもちろん、学校からの情報開示の範囲にも違いがあり、なにかから手をつけていいのかわからない方も多いでしょう。つなぐでは今後も、シリーズで各地域での子育て支援への取り組み事例を紹介していきます。



子育て支援事例1

安曇野市



▲子育て通信60号表

豊科地区子育て通信の発行 主任児童委員が編集

安曇野市豊科地区の主任児童委員会では、年2回「子育て通信」を発行しています。今年の3月で60号を数えました。9月の発行に向けた主任児童委員会におじゃましました。

出席者は主任児童委員3人の他に民生児童委員の児童福祉部会と会長の6人です。

このメンバーとなって発行した60号では、「食育」をテーマに取り上げました。「食育って何のこと」から始まり、いわゆる「こ食」といわれ、1人で食事を取るなどの現状から、その影響を丹念に説明します。そして、食べるというこ

との大切さを訴えました。記事の一部には郷土の詩人「木曾小三」の作品も紹介。読む人の心に届く内容を目指しています。

次号では「食育」のテーマをさらに突っ込んで取材する予定とのこと。小中学校の具体的な食育の取り組みを紹介しようと、安曇野市の29年度食育推進計画などの資料を集め、題材にして議論しました。ミーティングでは、今年から安曇野市でスタートした「こども食堂」にも注目し、「本当に食べられない子どもはどれくらいいるのか」「親と一緒にではなく、孤独で食べるこ食の問題が大きい」な



▲たくさんの資料を用意し検討



▲編集会議の様子6月22日市役所会議室で



◀ 過去の子育て通信 (虐待や食育の特集が)

▲ 豊科主任児童委員 会長の山本紘子さん

ど、活発な意見が交わされました。次号の発行に向けて、豊科中学校での食育の取り組みの取材に加え、

10年前から発行。継続は力なり

「朝食」に焦点を当てて、さらに調査し、掲載内容を決定していくことになりました。

「子育て通信」第1号が生まれたのは平成8年、当時の主任児童委員が自主的に発行を決めました。今年で10年目になります。「豊かな子に育てる」ことを念頭において、内容を決定し、編集しています。市内の小中学校、保育園、児童館、公民館、行政の福祉課など、関係者に配布しています。また、民生児童委員の定例会で配り、家庭を訪問する際に活用しています。

内容は赤ちゃんから中学生まで、幅広い年齢の子どもたちを取り巻く環境を察知し、社会課題を取り上げます。過去には家庭のあり方について「父性・母性を考える」、「不登校や引きこもりについて」、「強い子に育てるには」、「虐待について」など、数字にわたって追っていきます。

主任児童委員会長の山本紘子さんは「理論だけでは難しい。できるだけ生の声や事例、報告を取り上げながら、読んでもらえる記事

に」と話します。「ほっとする文も入れたい」と、作文や詩、本の引用なども取り入れています。また、いかに読んでもらえるかという視点では、字の大きさや空間などレイアウトも手作りで工夫しています。児童館などにも設置しているため、親御さんからも「すばらしい」という評判も。

短時間で読め、持ち運びもできます。

出席した編集委員は「この編集会議に出席するようになって子どもを取り巻く社会状況に大変興味を持つようになった」「長い間編集に携わり、ここで学んだことを活動に取り入れて行きたいと考えている」と話します。

年2回の「子育て通信」を編集するという活動が、民生児童委員のみなさんの意識向上と、関係者や地域の皆さんへの啓発活動へとつながっています。

増田会長は「主任児童委員の人材がすばらしい。継続は力なり。ぜひ多くの方に読んでほしい。この編集を通して、児童委員として常にアンテナを張って問題を考えることができることが利点」と話します。過去に教員だった委員も多く、いわば教育のプロの情報収集力と、子育てを経験した母親や父親の視点も取り入れています。毎回A4版一枚両面、というのも気軽に



▲主任児童委員3人、民生児童委員児童福祉部会2人、豊科地区会長の6人で

子育て支援
事例2

茅野市



▲入学時に渡すセカンドブックの案内

セカンドブック・プレゼント活動
市民団体と市、民生児童委員が協働で

茅野市では、小学校に入学する児童全員に、お祝いとして絵本やお話の本を1冊贈っています。その活動に民生児童委員が協力しています。

そのセカンドブックの授与式があると聞いて、6月8日、茅野市湖東小学校を訪ねました。主体となるのは、読み聞かせの市民団体「読書の森 読りーむいんちの」です。メンバーをはじめ、民生児童委員、教育委員会関係者など約20人が、図書館に集まり、校長や教員も含め打ち合わせを行いました。入学式にあらかじめ配布してお



▲文学の匂い漂う茅野市湖東小学校

いた30冊のリストの中から、子ども達が好きな本を選んで注文をします。入学後の最初の参観日に、その本を一人ひとり手渡します。1年生2クラスにそれぞれ分かれ、名前を読み上げます。民生児童委員をはじめ集まったメンバーが、一人ひとりの児童に声を掛けます。「本は読んでいるか? どんな本が好きか? どんな本を選んだのか?」など、一人ひとりに向き合って笑顔で手渡す姿は微笑ましいばかりです。

本を手渡されると、親子で子どもをひざの間に入れ、さっそく本を読み聞かせます。児童からは「ママと本が読めてうれしかった」「参観日に本がもらえてうれしい」と満面の笑みで答えました。

出席した親子は「茅野市では、ファーストブックからスタートして、成長の節目に本がもらえます。子どもが3人いるので、兄弟でシェアして親子で活用しています。おかげで本が大好きになりました。他県から転勤してきましたが、他の地域にはない、すばらしい取り組みだと感謝しています」と話していました。

この活動では、児童だけではなく担任にも1冊、本が授与されま



▲セカンドブック授与のために図書館で打ち合わせ

す。子ども達と対等な立場で、本を楽しむ先生の姿は、子ども達にとってもいいお手本となっています。また読書推進に向けた教員の意欲向上にもなっているといえます。大石順子校長は「学校をあげて日ごろから読書を推進している。平成29年文科省優秀実践校として表彰された。心の豊かさを大人から子どもへ伝える活動は他にない茅野市の誇り」と話していました。

民生児童委員の1人で、読書の森 読りーむいんちのメンバーでもある赤沼地区会長は「ならし保育の時に保育園で会った子が、小学校に入学し、今日再会できました。手渡しで直に成長を見ることが



▲民生児童委員が子どもに笑顔で本を手渡し



▲並んで一人一人にプレゼント

ができてうれしかった。本を読むことで人生は変わっていくので民生児童委員としても今後この活動に努力していきたい」と話します。また茅野市主任児童委員会の保科会長は、「親の読み聞かせを真剣に聞く姿に感動した。手渡しの時に子ども達に家での読書についてたずねると、読み聞かせが家

セカンドブックプレゼントは13年目に

このセカンドブック・プレゼント活動は「読書の森 読みむいんちの」が主体となつています。現在メンバーは約90人。立ち上げから携わった本間佐男さんに話を聞きしました。

「ことばは第2の命」「ことばと心を育てる」をキャッチフレーズに、市民が様々な立場から参加し、言葉を通してコミュニケーションを推進し、地域の人間関係づくりを目的に活動しています。1999年、市が掲げる「パートナーシップのまちづくり」の重点課題のひとつとして、読書活動推進の会を行い、関係者や市民約200人が参集。翌年公民協働の「読書の森 読みむいんちの」が発足しました。事務局は茅野市生涯学習課が担っています。

2000年から全国に先駆けて赤ちゃんに贈る「ファーストブック・プレゼント」の活動を始めました。

庭で定着していることがわかりうれしかった。また保護者が全員出席してくださり、親子で本に関心をもっていただくことがわかった。この活動を広めて市民にも理解を得たい」と、この活動を通して現場で子ども達と触れ合ったり、他団体と連携することが、児童委員としての活動の核となっています。

その後2005年に、セカンドブック・プレゼント活動を開始。

学校などで読み聞かせを行っているメンバーや教育関係者らが、小学校1年生の入学に合わせ、30冊を厳選し、そのリストを入学時に配布します。絵本・童話・昔話など幅広い分野の本がそろっています。親子で選び事前に注文をとり、入学後最初の参観日に、教室で各10人前後のメンバーが子どもたち一人ひとりに本を手渡すという活動です。

授与当日は教育委員、市会議員、民生児童委員、保育園・幼稚園の先生、婦人会など延べ200人近い市民ボランティアが参加します。今年度は茅野市内の小学校9校、計514人全員と1年生のクラス担任にプレゼントしました。「セカンドブックの活動は13年目を迎え、最初にプレゼントした子ども達はいま大学生へと成長しています。



▲本を親子で読む様子が微笑ましい

中学・高校でも本が好きな生徒が増え、手ごたえを感じている」と本間さん。

「読書の森 読みむいんちの」では、読み聞かせ実践会、紙芝居部会、パネルシアター部会、ブックリスト部会、赤ちゃん絵本部会など12の活動部会があります。講演会や、おはなし会、読み聞かせフェスタ、読書の集いなど、多くの活動を精力的に行っています。茅野市では現在こども・家庭応援計画「どんぐりプラン」があります。こうした公民協働での継続した活動が「たくましくやさしく夢のある子どもに」と子ども達の育ちを支えています。そして民生児童委員もネットワークのひとつとして、大きな役割を担っているのです。

○永年勤続民生児童委員表彰(146名)

Table listing 146 recipients of the Long-term Dedication Award for Social Welfare and Children's Welfare Committees, organized by municipality.

○永年勤続民生児童委員協議会会長表彰(4名)

天龍村 金田 隆 / 松本市 平林 一郎 / 上田市 増田 宗彦 / 上田市 鷹野 良信

○優良単位民生児童委員協議会表彰(4協議会)

上田市北部地区民生児童委員協議会 / 飯田市上久堅地区民生児童委員協議会 / 生坂村民生児童委員協議会 / 栄村民生児童委員協議会

○感謝(26名)

Table listing 26 recipients of the Appreciation Award, organized by municipality.

長野県社会福祉協議会会長表彰

平成29年9月13日(水)

長野県社会福祉大会において表彰

○民生・児童委員功労表彰(40名)

Table listing 40 recipients of the Merit Award for Social Welfare and Children's Welfare Committees, organized by municipality.

全国民生委員児童委員連合会会長表彰

平成29年7月9日(日)

全国民生委員児童委員大会において表彰

○優良民生委員児童委員協議会表彰

飯田市上久堅地区民生児童委員協議会

○永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長表彰

王滝村 畑中 実祐

○永年勤続民生委員・児童委員表彰(79名)

Table listing 79 recipients of the Long-term Dedication Award for Social Welfare and Children's Welfare Committees, organized by municipality.



編集委員

リレー日記

今年の夏はさわやか信州ならぬ高温多湿の猛暑となり、7月の豪雨では九州北部や秋田、山形などで多くの人命と生活の基盤が失われました。心から弔意を表します。加えて、高齢者の熱中症による死亡事故、また車内で命を奪われる子どもへのニュースに憤る暑い夏となりました。ここで特筆すべきは、自治体の情報不足により児童虐待死が5割しか検証されていない実情は、民生児童委員・主任児童委員の活動上再考の余地があるとの思いを深めました。

同じ7月民生委員制度創設100周年記念、全国民生委員児童委員大会が両陛下ご臨席のもと、2日間にわたって東京ビックサイトで開催されました。ここでは次の100周年に向けて大会宣言とこれからの民生児童委員活動の「ローガン」支えあつ、住みよい社会「地域から」が発表されました。委員として日々気休まることのない私達ですが、100年の歴史の流れの節目に身を置けた不思議な縁に感動しながら、地域共生の役割を「我がごと」「丸ごと」と受け止め、様々な課題と向き合いながら200年への一歩を踏み出そうと感じた次第です。改選から早くも1カ月を残し1年が過ぎようとしていきます。多忙な毎日をごさる長野県民生児童委員の皆様、健康留意の上、ご活躍をお願い致します。

(増田早苗)

編集委員 / 熊井 文弘・土屋 珠江・増田 早苗・深澤 保雄